

畧譜

戸塚

戸張

戸川

戸田<sub>下</sub>

外山

戸糸

戸口

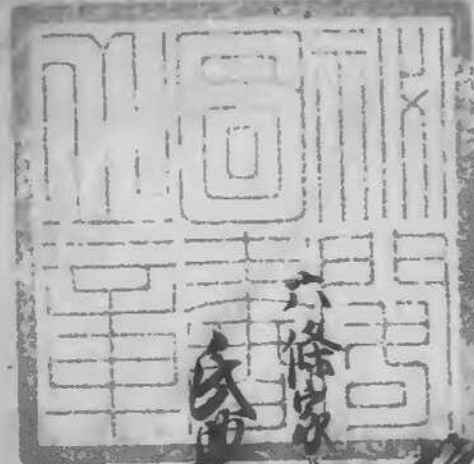
二百十一冊



共

内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211 (35)
函號	156 17

庫文閣内	
五 架	三 六 〇 八 冊
九 架	三 一 冊
和 書	類



六條宮  
氏重

材之美也  
中乃通有  
程申有純二重

源姓  
戸田

家紋  
言二重衣

九龍録御用所

九龍九  
九龍九

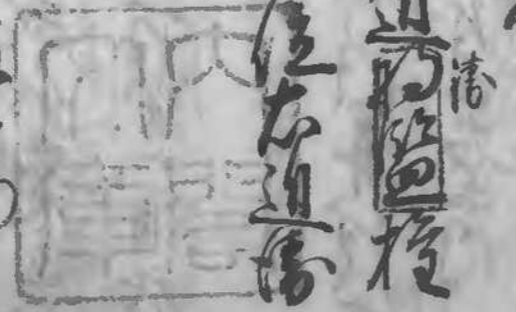
母  
戸田常子為春女

後田信下侍従

戸田信下侍従

初 者古多

初 者古多



大正... 日克  
大正... 日克  
大正... 日克  
大正... 日克  
大正... 日克

大正... 日克  
大正... 日克  
大正... 日克  
大正... 日克  
大正... 日克

大正... 日克  
大正... 日克  
大正... 日克  
大正... 日克  
大正... 日克

三上公孫の國十二年一上公孫白日光之也  
 長代因三上公孫の延元元年十月十二日  
 事始上使日十三上公孫の國七年十月  
 十五日病死之元禄九年十二月五日  
 辰の國一萬年八月九日死由所法恩  
 寺葬

氏興

三上公孫痛 景吉 中務

御世長  
 從五位上侍從  
貞享三年三月の初  
 元禄九年十二月十四日卒  
 元禄九年十二月十四日卒

家因百位位中侍從の國一萬年  
 正月十四日是十七日長代因三上公孫  
 日廿日病死の國一萬年四月十日伊勢  
 長代因三上公孫正月十日病死の國一  
 年四月十日是十七日長代因三上公孫  
 順日廿日病死の國一萬年十一月九日  
 仙波公孫之遷 宮内省長代因三上公孫  
 順日廿七日病死の國一萬年九月二十日  
 元十七日長代因三上公孫日病死の  
 家因元年十一月十日病死由所法恩

代田名高 西暦一千九百零二年

二月十日

常憲 西暦一千九百零二年

文昭 西暦一千九百零二年

七月十日 西暦一千九百零二年

八月十日 西暦一千九百零二年

九月十日 西暦一千九百零二年

十月十日 西暦一千九百零二年

十一月十日 西暦一千九百零二年

十二月十日 西暦一千九百零二年

西暦一千九百零二年 二月十日

西暦一千九百零二年 二月十日

西暦一千九百零二年 二月十日

西暦一千九百零二年 二月十日

西暦一千九百零二年 二月十日

西暦一千九百零二年 二月十日

氏尹

西暦一千九百零二年 二月十日

享保十七年二月廿六日別發の如和心廿年  
十月卒有死七程之系以守葬

氏高

戸田重行号 内通 文章卿 従後  
従五位下 侍従

享保十七年三月廿一日自号人表与家  
席の寛保二戊年七月卒号の如和心  
宝曆二申年三月卒号の如和心  
侍従の如和心年九月廿一日卒号の如和心

寛保二申年三月廿一日自号人表与家  
席の寛保二戊年七月卒号の如和心  
宝曆二申年三月卒号の如和心  
侍従の如和心年九月廿一日卒号の如和心  
享保十七年七月廿八日自号人表与家  
二月廿一日卒号の如和心  
享保十七年二月廿六日自号人表与家  
二月廿六日卒号の如和心  
享保十七年二月廿六日自号人表与家  
二月廿六日卒号の如和心  
享保十七年二月廿六日自号人表与家  
二月廿六日卒号の如和心

右京権左衛門尉藤原公純  
年九月五日死

氏朋

戸田公休子 文部卿 皇書中務兼補

藤原位中侍

子二子名 敏家 敏行  
延暦六年十二月 敏行自号人老  
席 延和元年十二月 上白子家  
位中侍 延和元年十二月 上白子家  
長 延和元年十二月 上白子家

藤原女日清 延和元年二月 上白子家  
左 延和元年二月 上白子家  
西 延和元年二月 上白子家  
寅 延和元年二月 上白子家  
卯 延和元年二月 上白子家  
辰 延和元年二月 上白子家  
巳 延和元年二月 上白子家  
午 延和元年二月 上白子家  
未 延和元年二月 上白子家  
申 延和元年二月 上白子家  
酉 延和元年二月 上白子家  
戌 延和元年二月 上白子家  
亥 延和元年二月 上白子家

○  
此書多法其後  
仙國之地十段  
其後多法其後  
其後多法其後  
其後多法其後

○  
此書多法其後  
仙國之地十段  
其後多法其後  
其後多法其後  
其後多法其後

癸亥年四月廿五日  
癸亥年五月廿五日  
癸亥年六月廿五日  
癸亥年七月廿五日  
癸亥年八月廿五日  
癸亥年九月廿五日  
癸亥年十月廿五日  
癸亥年十一月廿五日  
癸亥年十二月廿五日

○  
此書多法其後  
仙國之地十段  
其後多法其後  
其後多法其後  
其後多法其後



加藤氏系  
 中五下  
 但定四年

大綱之系  
 乃方御  
 同年  
 百五

氏併

南備後守  
 文部卿  
 漢書

寛政  
 嘉永  
 天保

氏併  
 同年  
 位下侍候



有系所

家紋

六ツ目

之田

之六子二千二百餘

田澤心少湖康光口田男十郎大守

重直其嫡子

松平母傳の孫と云ふ事ありて重直と云ふ事あり

重元

田澤清与 壬午十郎大守

始程年紀伊守家忠之屬夫也壬午年長  
篠原右衛門尉武行等與系心少と云ふ事  
記し但合谷屋落部と云ふ事あり

某 孫九郎

小田原守  
訂記

権現権正と云はれし御由常々申され候年  
旅立の儀に於て御由を記し置候事候間

位長御説也

権現権正今日之権也戸田より之儀候事  
此の儀の儀に於て御由を記し置候事候間

名権現権正御由の事十八年山田京御由

名権現権正御由の事御由を記し置候事候間

御由を記し置候事候間  
御由を記し置候事候間  
御由を記し置候事候間

御由を記し置候事候間  
御由を記し置候事候間

御由を記し置候事候間

御由を記し置候事候間

御由を記し置候事候間

御由を記し置候事候間

御由を記し置候事候間

御由を記し置候事候間

御由を記し置候事候間

御由を記し置候事候間

拜啟也

冒書之

禮文侍

御方

日候

多毛拜山指也

右任後極公筆天神妙号山指物

侍之人兼茶壺

及山前兼茶壺

右之京在橋史

兼茶壺切并山前京山傳之月

右任後極公筆天神妙号山指物

侍之人兼茶壺

重宗

右田者子師

右任後極公筆天神妙号山指物

侍之人兼茶壺

及山前兼茶壺

右之京在橋史

兼茶壺切并山前京山傳之月

平田氏少輔藤原公家守身

光政

平田氏年

別紙に夜夜子孫を授け大官を歴代  
初代号を知らず少石より公家以  
て

重権

平田氏年

修了書 町守

元和元年二月西條の書元和二年

新に家名を改め給ふ事百有餘の月  
平田氏の歴史を記し其の由を  
甲府中城を改め保元平田氏の事  
安永二年六月廿日地蔵堂を修す事  
平田氏の歴史を記し其の由を  
中久能の由 久能の由は由井の由に治府の由を  
平田氏の歴史を記し其の由を  
元和元年九月廿日平田氏祖傳の由  
平田氏の歴史を記し其の由を  
平田氏の歴史を記し其の由を

年尾名臣使の曰二年二月八日大御  
 政の曰十二年十二月之四日大御  
 者有後福山業高山臣結 通成  
 天和二年四月七日老中元禄元年  
 一月七日死七拾日業江戶傳定下  
 松子孫

重恒

元禄初年  
 重恒  
 元禄二年父大御政以江戶傳定下

三月長子信長元和元年  
 一月十八日死信長之弟本因寺孫

其

元禄六年六月廿七日死  
 元禄二年二月廿二日死

重利

元禄六年正月廿七日死  
 元禄元年正月廿七日死

予は白河遷都の案に同意すべし  
 多良月日 一書に九年、所傳名に後三年西暦あり  
 同年七月十日父老死す西力重立代公令之取  
 被<sub>レ</sub>シ同日一年四月五日西暦収去國七歳是  
 西暦漢内西取日市中日人を治せ成<sub>ル</sub>  
 日皇年没成か西<sub>レ</sub>日八年二月十八日大  
 清及<sub>レ</sub>日年十二月布衣<sub>ノ</sub>家承七年定  
 日皇年<sub>ニ</sub>出社但多取<sub>ノ</sub>日年九月廿八日  
 法多文<sub>ノ</sub>西暦元年二月廿七日西暦没  
 西暦元年八月十日大書番取<sub>ノ</sub>日皇年

六月十日西暦年布衣死す年皇没<sub>ル</sub>

美根年記に伊予に屬す

戸田備後守 汲河 右中 備後守

重<sub>ノ</sub>讀  
 後種辰 修<sub>レ</sub>子 和<sub>レ</sub>子

享保三年七月十日西暦八月  
 西暦〇月年十月十日西暦西力港民  
 為継代令之被<sub>レ</sub>シ同日十年七月十日  
 八月十日

予は遷都案に同意す

三ノ月廿二日... 年十月廿二日... 延二年二月廿二日... 守に雷... 上ノ月廿二日... 乙未年九月廿二日...

舞

種員

田方市 海門

有酒屋

乙未二年九月廿二日

美濃縣 津家系 乙未年八月廿二日

乙未年八月廿二日

光邦

胎邦

美濃縣 胎邦 乙未年八月廿二日







友系姓

家紋 九曜  
蛇目

戸田

古苗十田 子三子石

大織冠徳是右出十田薄荒安所村宗光代  
戸田米女心氏伝不男

戸田主税 十部

氏康

嘉永 兼永 祐信定

為定室二寅年二月八日見旺後与分二子石石知

同年月廿八日此以終の家永元申年

十月二十日徳后の西徳二辰年十リ百死

七年三狗也蓮克守三森

大賞

戸田宗也の孫  
戸田宗也の孫  
戸田宗也の孫  
戸田宗也 松母

○寛政元年申年十一月二日在洛○  
同日夕七時卒○  
○寛政元年十一月八日卒○

氏亮

戸田宗也の孫  
戸田宗也の孫  
戸田宗也の孫  
戸田宗也 丹治節

○寛政元年八月八日卒○  
同日夕八時卒○

○寛政元年十一月十三日死○

氏任

戸田宗也の孫  
戸田宗也の孫  
戸田宗也の孫  
戸田宗也 玄菟 玄菟 多指  
流江橋山

○寛政元年十一月十四日卒○  
同日夕八時卒○  
○寛政元年十一月十四日卒○  
同日夕八時卒○

氏昌

戸田宗也 主税 清吉

天明己酉年十一月廿七日  
己酉年九月晦日  
六月廿七日  
七年三月又日  
高武千石



友東姓  
家紋  
戸田  
二子  
六ッ星

大織冠藤足より出戸田源正左衛門尉宗  
光六代孫政孝二男

貞政 戸田平左衛門 初政

寛永年中  
正保己亥年二月十日  
源寺之葬

吉政

戸田平左衛門

致馬

見元年左馬助  
為戸田平左衛門

在治の寛文三年二月十日  
組の元禄十二年閏正月  
三葉同寺

政勝

戸田左衛門

致馬

天和之元年七月五日初見の元禄十二年

十一年在治の寛永二万一年  
十八日死年九葉同寺

政春

戸田少次郎

寛永二万一年七月十日在治の寛保  
九年七月七日死年四葉同寺

政弘

戸田平左衛門  
戸田平左衛門

致馬

享保九年八月廿九日吉子老免○  
同日九日寅年十一月廿二日申書院取○元  
文云申年德河王取○竟正元辰年  
福免○享保九年八月廿九日吉子老免○

改利

享保九年八月廿九日吉子老免○  
戸田平九郎 虎助 石高  
徳江永字

享保九年八月廿九日吉子老免○  
享保九年八月廿九日吉子老免○  
享保九年八月廿九日吉子老免○

享保九年八月廿九日吉子老免○  
享保九年八月廿九日吉子老免○  
享保九年八月廿九日吉子老免○

改氏

戸田徳彦

享保九年八月廿九日吉子老免○  
享保九年八月廿九日吉子老免○  
享保九年八月廿九日吉子老免○

邦政

元文元年六月三日  
戸田直賢  
五郎 若太郎

天保二年三月十九日  
改二年三月廿七日  
改二年三月廿七日  
改二年三月廿七日  
改二年三月廿七日  
改二年三月廿七日

高田白石

除

後原姓

家紋

三ツ巴

戸田

子五郎三十一

大織冠藤足後胤三河國臣戸田  
侍左衛門直信只代戸田孫左衛門直賢  
三男

直賢

戸田三郎左衛門

元文元年六月三日  
元文元年六月三日  
元文元年六月三日  
元文元年六月三日  
元文元年六月三日

叙又少瀬戸相勤比夫初事在等心春  
及介言在立正春場子少性相勤作  
夫初能言正虎依預

博信院様沖代延享三寅年八月之新規  
正出萬次郎殿進習書言現米  
少拾石或拾人技抄勤比月少令或拾為  
正下〇日少白稿少初戸服為戸因  
公修為少名舍

公方様上 冲希少礼上上同高次郎殿

少礼上上一年始八初太節白月並身大  
少三少名酒少不納戸之次為少礼上上  
同年十一月之極田少用至為少長  
登彩之包屏借位看侍〇同己卯年  
七月十二日皆勤時服〇宝曆六子年  
二月十日膳番〇同九三年十一月廿九日  
少降切同年十二月十日清水上移位  
少骨供仕〇同十辰年十二月十二日清水  
少屋敷進習番次九〇同十二年



正月十日物次格年々令或拾為宛○  
同年七月十六日用人堤 公候百儀  
後清水或百儀○同年十二月十九日布  
衣○同十三日申年七月二日年々令或拾為  
宛○同十四日申年四月八日死早四日兼  
是家下青松寺地中忠岸院葬

戸田万右

三九

直孝

現米石拾石拾石拾

宝曆十巳申年六月七日 家格宗令○  
安永八申年七月十八日 迫名番年々  
令或拾為宛○天明元丑年十月八日  
小姓○寛政三亥年十二月廿日 目録  
○同四子年 正月十日 勤令拾為宛外  
為子商令拾為宛○同五丑年十月十日  
目録○同七卯年七月十日 清水殿進云  
正月十日 山葵道也法率也用口年  
八月廿五日 和拜願○同年八月廿九日

清水奥向勤番。同年十二月廿七。奥  
表勤番所。同八月辰年十一月八日  
清水勤番組。同八月辰年十一月八日

直忠

戸田海助

寛政九年十二月廿二日

直忠

家茂

戸田

連翻  
唐亮  
百石

戸田直忠之局

直忠

戸田九年

初九日

勝則

兄直忠為忠次三所

江戶作本家屬

直忠振興之方

之旨古兵誠是海内保...  
 海内法はた、親切多し、若果八  
 百年を志し、又、海内内、或は後、  
 〇同九年、相長、知り、或は石、  
 〇同九年、相長、知り、或は石、  
 〇同九年、相長、知り、或は石、  
 〇同九年、相長、知り、或は石、

自告

戸田久助

〇同九年、相長、知り、或は石、  
 〇同九年、相長、知り、或は石、  
 〇同九年、相長、知り、或は石、  
 〇同九年、相長、知り、或は石、  
 〇同九年、相長、知り、或は石、  
 〇同九年、相長、知り、或は石、  
 〇同九年、相長、知り、或は石、  
 〇同九年、相長、知り、或は石、  
 〇同九年、相長、知り、或は石、  
 〇同九年、相長、知り、或は石、

八見家紀

寛永十五年十月  
二十日早八時  
子辰し考りて信  
信より父功亦  
多行可なる中

大敵は梅沢氏に世に御座りて御座り  
御座りて人母原治の役なりと云  
御座りて御座りて御座りて御座り  
御座りて御座りて御座りて御座り  
御座りて御座りて御座りて御座り

切の御座りて御座りて御座りて御座り  
御座りて御座りて御座りて御座り  
御座りて御座りて御座りて御座り  
御座りて御座りて御座りて御座り

御座りて御座りて御座りて御座り  
御座りて御座りて御座りて御座り  
御座りて御座りて御座りて御座り  
御座りて御座りて御座りて御座り  
御座りて御座りて御座りて御座り  
御座りて御座りて御座りて御座り  
御座りて御座りて御座りて御座り  
御座りて御座りて御座りて御座り  
御座りて御座りて御座りて御座り  
御座りて御座りて御座りて御座り

自意

三國七部大考

四部大考

神皇正統記初編卷之三 孝安元年

政利

法皇程部

母后程部法皇程部初編卷之三 孝安元年

政廣

法皇程部

大猷院御代法皇程部初編卷之三 孝安元年

至孝皇御代法皇程部初編卷之三 孝安元年  
皇太后御代法皇程部初編卷之三 孝安元年  
皇太后御代法皇程部初編卷之三 孝安元年  
皇太后御代法皇程部初編卷之三 孝安元年  
皇太后御代法皇程部初編卷之三 孝安元年  
皇太后御代法皇程部初編卷之三 孝安元年  
皇太后御代法皇程部初編卷之三 孝安元年  
皇太后御代法皇程部初編卷之三 孝安元年  
皇太后御代法皇程部初編卷之三 孝安元年  
皇太后御代法皇程部初編卷之三 孝安元年

正名

戸田七郎

物部系祖の明暦二年(1656)に生れ、幼名有  
小善清、寛文二年(1662)大田守清の臣に  
出で、享和七年(1807)二月に没す。死後、

美濃

戸田三郎

寛文八年(1668)に生れ、

膳房

戸田七郎

寛文七年(1667)

寛文十二年(1672)二月、父戸田自久の死後、六  
年年、父の位を承継す。用ひ、其膳房  
將士、享和七年(1807)に没す。其年、  
之、其膳房將士、其膳房將士、其膳房將士、  
父死後、享和七年(1807)に没す。其年、

氏

常憲、元梅、氏、其膳房將士、其膳房將士、  
二月、百、其膳房將士、其膳房將士、

當清入の同十五年一月日今有右書の同  
年有正音新書の重保元年正月  
闕の如くして正音新書の如く行用せられたる  
是の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる

正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる

長福神の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる

正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる  
正音新書の如く正音新書の如く行用せられたる

四領所發也其由國來者乃相の重保  
 二百一十年一月十二日以前檢發の成公書  
 其由京より上投付書と其由京より投付書  
 三月以後は其由京より投付書同月十二日  
 以前に上出の紙と云ふ下類の法書を其由京  
 成公書に在る二枚一枚一枚の以て其由京に  
 上出の紙と云ふ

大猷院極樂堂寛永八年九月廿五  
 了本字抄之由京より上出の紙と云ふ  
 但し其由京に在る二枚一枚一枚の以て其由京に

正保元年一月廿四日發付の由京より  
 天橋寺にて一種の紙と云ふ種成公書と云ふ  
 由京より上出の紙と云ふ種成公書と云ふ  
 其由京より上出の紙と云ふ種成公書と云ふ

有地は極樂堂に在る此の由京より上出の紙と云ふ  
 其由京より上出の紙と云ふ種成公書と云ふ  
 其由京より上出の紙と云ふ種成公書と云ふ  
 其由京より上出の紙と云ふ種成公書と云ふ  
 其由京より上出の紙と云ふ種成公書と云ふ



從國公使年久家定建絶之知國國府令方去  
之旨抄中加心也心方是後二合之校  
存版の享保七箇年四月下之孔也推業  
同守舞

贈便

英三回信年並別三書  
戸田忠助 松江所 久助

西傳二石年七月下之卷子の享保の廿  
年六月下之江國人の同年三月下之書  
書格に書道に及ぶもの同七箇年六月

寫字書直書道に及ぶもの同七箇年六月  
は書格に書道に及ぶもの同七箇年六月  
名も心外と字の書格に及ぶもの同七箇年六月  
八月同年三月下之書格に及ぶもの同七箇年六月  
二月下之書格に及ぶもの同七箇年六月  
書格に及ぶもの同七箇年六月  
元文同書年と書格に及ぶもの同七箇年六月  
文同書年三月下之書格に及ぶもの同七箇年六月  
二月下之書格に及ぶもの同七箇年六月  
初書格に及ぶもの同七箇年六月

海軍大臣の職務を勤行し、功績を著し、大いに  
日清戦争に際し、海軍大臣として、海軍の  
整備に努め、海軍の近代化に貢献した。  
明治二十一年、海軍大臣に就任し、海軍の  
近代化に努め、海軍の近代化に貢献した。  
明治二十一年、海軍大臣に就任し、海軍の  
近代化に努め、海軍の近代化に貢献した。

海軍大臣に就任し、明治二十一年六月、海軍大臣に就任し、海軍の近代化に努め、海軍の近代化に貢献した。  
明治二十一年六月、海軍大臣に就任し、海軍の近代化に努め、海軍の近代化に貢献した。  
明治二十一年六月、海軍大臣に就任し、海軍の近代化に努め、海軍の近代化に貢献した。

勝安

戸田久助 武蔵 久保節

明治二十一年七月、海軍大臣に就任し、海軍の近代化に努め、海軍の近代化に貢献した。  
明治二十一年七月、海軍大臣に就任し、海軍の近代化に努め、海軍の近代化に貢献した。  
明治二十一年七月、海軍大臣に就任し、海軍の近代化に努め、海軍の近代化に貢献した。



月廿五日病歿の日は本年八月二十三日也  
之宗は年壽

勝莫

戸田五郎 久市 終活師

天保二丁酉年二月廿七日酉時没  
育は三月廿七日酉時没  
日名年十一月十日酉時没  
二戌年十一月十日酉時没  
十月十日酉時没

夜月不初病歿の日は本年八月二十三日也  
月廿五日病歿の日は本年八月二十三日也  
今丁酉の日は本年十一月十日酉時没  
行末向満すお初年四月廿五日初地也  
三切骨子三月十日酉時没  
少の病歿

この少の病歿  
お後り法  
道に書居る



養東此

家紋 六ッ星 自

戸田

高五百八十石

戸田久助 貞吉 孫

忠次四郎在末門 貞吉正

義陳

戸田之巻 右

祖文三つし 内形忠三郎三子 忠三郎

お百の福七石 六十石 忠次 忠三郎 忠四郎 忠五郎 忠六郎

忠七郎 忠八郎 忠九郎 忠十郎 忠十一郎 忠十二郎 忠十三郎 忠十四郎

忠十五郎 忠十六郎 忠十七郎 忠十八郎 忠十九郎 忠二十郎 忠二十一郎 忠二十二郎

因年八月廿九日午之程保年并

改別

庚子國史の御旨書  
戸田清之節

元禄七四年七月廿日若菜子の月八日  
元禄八四年八月廿日若菜子の月九日  
元禄九四年八月廿日若菜子の月十日  
元禄十四年八月廿日若菜子の月十一日  
元禄十五年八月廿日若菜子の月十二日  
元禄十六年八月廿日若菜子の月十三日  
元禄十七年八月廿日若菜子の月十四日  
元禄十八年八月廿日若菜子の月十五日  
元禄十九年八月廿日若菜子の月十六日  
元禄二十年八月廿日若菜子の月十七日  
元禄二十一年八月廿日若菜子の月十八日  
元禄二十二年八月廿日若菜子の月十九日  
元禄二十三年八月廿日若菜子の月二十日  
元禄二十四年八月廿日若菜子の月二十一日  
元禄二十五年八月廿日若菜子の月二十二日  
元禄二十六年八月廿日若菜子の月二十三日  
元禄二十七年八月廿日若菜子の月二十四日  
元禄二十八年八月廿日若菜子の月二十五日  
元禄二十九年八月廿日若菜子の月二十六日  
元禄三十年八月廿日若菜子の月二十七日  
元禄三十一年八月廿日若菜子の月二十八日  
元禄三十二年八月廿日若菜子の月二十九日  
元禄三十三年八月廿日若菜子の月三十日

改量

戸田之程乃 今年

元禄元年八月廿日若菜子の月一日  
元禄二年八月廿日若菜子の月二日  
元禄三年八月廿日若菜子の月三日  
元禄四年八月廿日若菜子の月四日  
元禄五年八月廿日若菜子の月五日  
元禄六年八月廿日若菜子の月六日  
元禄七年八月廿日若菜子の月七日  
元禄八年八月廿日若菜子の月八日  
元禄九年八月廿日若菜子の月九日  
元禄十年八月廿日若菜子の月十日  
元禄十一年八月廿日若菜子の月十一日  
元禄十二年八月廿日若菜子の月十二日  
元禄十三年八月廿日若菜子の月十三日  
元禄十四年八月廿日若菜子の月十四日  
元禄十五年八月廿日若菜子の月十五日  
元禄十六年八月廿日若菜子の月十六日  
元禄十七年八月廿日若菜子の月十七日  
元禄十八年八月廿日若菜子の月十八日  
元禄十九年八月廿日若菜子の月十九日  
元禄二十年八月廿日若菜子の月二十日  
元禄二十一年八月廿日若菜子の月二十一日  
元禄二十二年八月廿日若菜子の月二十二日  
元禄二十三年八月廿日若菜子の月二十三日  
元禄二十四年八月廿日若菜子の月二十四日  
元禄二十五年八月廿日若菜子の月二十五日  
元禄二十六年八月廿日若菜子の月二十六日  
元禄二十七年八月廿日若菜子の月二十七日  
元禄二十八年八月廿日若菜子の月二十八日  
元禄二十九年八月廿日若菜子の月二十九日  
元禄三十年八月廿日若菜子の月三十日

改任

戸田正宗

大佐

寛保二戌年正月元 寛保三戌年正月元  
有以之太政官西水八十五年二月  
死之十三年同日寺

尹永

美山門下子雅治男

戸田正宗

享和元年七月七日相見 享和二年正月相見  
享和三年正月相見 享和四年正月相見

寛保二戌年正月元 寛保三戌年正月元  
有以之太政官西水八十五年二月  
死之十三年同日寺  
享和元年七月七日相見 享和二年正月相見  
享和三年正月相見 享和四年正月相見



有田

戸田

家紋

六ツ星

三ツ白石

先祖常陸守 高父戸田十郎

一所三河國田原庄高石戸田

右名高石戸田

高徳院様依 上意高九郎 素彦

戸田高石戸田

戸田高石戸田

某



味方ヶ東出陣は法津の事  
有國集は入國の事  
夏國下田成官の事  
也る名物

戸田常重

台信

長久の事津の事  
之は事としの事  
下田代友

十月十日の事  
十月十日の事

戸田友九郎

幕

右徳侯様也  
水産領也

台政

戸田常重

長徳院様上迄御方々 長徳院御方々  
 主殿様御方々御方々御方々御方々  
 大御方々御方々御方々御方々御方々  
 〇寛文元年七月十日 高札市  
 高札市御方々御方々御方々御方々御方々

寛文元年七月十日  
 高札市御方々御方々御方々御方々御方々

長徳

寛文元年七月十日 高札市御方々御方々御方々御方々御方々

正門大御方々御方々御方々御方々御方々御方々  
 昔々高札市御方々御方々御方々御方々御方々

寛文元年七月十日  
 高札市御方々御方々御方々御方々御方々御方々

長徳

寛文元年七月十日 高札市御方々御方々御方々御方々御方々御方々  
 〇寛文元年七月十日 高札市御方々御方々御方々御方々御方々御方々  
 〇寛文元年七月十日 高札市御方々御方々御方々御方々御方々御方々御方々  
 〇寛文元年七月十日 高札市御方々御方々御方々御方々御方々御方々御方々

中平九年八月七日病歿七十有歲市  
墓也

戸田武部 守之助

中澄

室永七 嘉平二年十一月十日  
保平九年十二月九日家督○元文  
二年十二月十日  
二年十二月十日  
二年十二月十日

戸田武部 守之助

初永島

勝之

初由之

寛保二年十一月十日家督○元享  
元年十二月十日  
二年十二月十日  
三年十二月十日  
四年十二月十日  
五年十二月十日  
六年十二月十日  
七年十二月十日  
八年十二月十日  
九年十二月十日  
十年十二月十日  
十一年十二月十日  
十二年十二月十日  
十三年十二月十日  
十四年十二月十日  
十五年十二月十日  
十六年十二月十日  
十七年十二月十日  
十八年十二月十日  
十九年十二月十日  
二十年十二月十日

内田武部 守之助

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*



五  
五

友  
友

家  
家

戸  
戸

言  
言

方  
方

直  
直

戸  
戸

直  
直

直  
直

神戶之徳之方は由度傳九日先首之徳九  
落部之徳之方は由度傳九日先首之徳九  
若勝部持之徳之方は由度傳九日先首之徳九  
寛永十二年十一月廿七日病死。享年五十七。  
子年也。由度傳九日先首之徳九

由度傳九日先首之徳九

寛永十二年十一月廿七日病死。享年五十七。  
子年也。由度傳九日先首之徳九

本年二月八日病死。二十五歳。武元園林  
山内正年。享年五十七。  
今由度傳九日先首之徳九

由度傳九日先首之徳九

寛永十二年十一月廿七日病死。享年五十七。  
子年也。由度傳九日先首之徳九

徳重年表

戸田助美 初等部 徳重年表

重依

寛文十六年七月廿三日

法揚院御表出所之儀成之儀也。元龜

二年七月廿三日。御表出所之儀成之儀也。

○寛永九年。申年。御表出所。日本子

ノ子御表出所。日本子御表出所。

二成年。御表出所。日本子御表出所。

御表出所。日本子御表出所。

御表出所。日本子御表出所。

御表出所。日本子御表出所。

御表出所。日本子御表出所。

御表出所。日本子御表出所。

御表出所。

正清

戸田三郎

寛永三年二月一日。賀正。重保三  
年。六月。普請。重保。八月。長  
日。元。沙。祐。東。出。法。口。安。知。年。志。以。法。家  
法。口。元。文。元。每。年。二。月。二。日。初。九。辰。子。殿  
葬。行。之。

正壽

戸田助解也 初九辰 子殿

葬行之

元文元 五年六月一日。多智。重保  
三年九月十日。安。知。重。保。一。年  
年七月八日。病。免。一。初。九。辰。子。殿  
葬。行。之。

正貞

戸田三郎

三年。六月。廿。五。日。重。保。一。年。六。月。廿。五。日。重。保。一。年。六。月。廿。五。日。  
元和八年。知。本。二月。八。日。多。智。一。年。九。  
廿。九。日。初。九。辰。子。殿。安。永。八。年。四。月。廿。五。

孝名院御書  
後口九初〇丁卯元  
初口九初〇丁卯元  
〇丁卯元  
〇丁卯元  
〇丁卯元

廣田重吉

又久

重吉

孝名院御書  
後口九初〇丁卯元  
初口九初〇丁卯元  
〇丁卯元  
〇丁卯元  
〇丁卯元

廣田重吉

家紋 六角星

廣田

字五右衛門九右衛門

廣田重吉  
字五右衛門九右衛門  
字五右衛門九右衛門

重吉

廣田重吉

廣田重吉  
字五右衛門九右衛門  
字五右衛門九右衛門





台徳院様御代書者。至長十六年。本領  
○至長二。本年十一月。下。伊東。中。津。領。者。  
今。高。橋。○。同。十七。年。七月。廿。日。病。死。宗。  
七。歳。或。死。因。而。久。保。切。通。主。就。年。暮。

三回至長

至長

至長。十二。年。本。領。者。○。同。十八。年。十。  
二。月。廿。日。病。死。○。至。長。二十。年。七。月。廿。日。

高尾。在。世。藏。身。高。尾。○。同。十八。年。十。

三回至長

至長

至長。二十。年。本。領。者。○。至。長。二十。年。十。  
二。月。廿。日。病。死。○。至。長。二十。年。七。月。廿。日。  
高尾。在。世。藏。身。高。尾。○。同。十八。年。十。  
二。月。廿。日。病。死。○。至。長。二十。年。七。月。廿。日。

子年以乃少所最貴乃。至永  
和未以乃病免。享保正年本國以乃  
治指。以乃本以乃古乃免乃信  
藏年有乃

戸田為平卿 忠直

正隆

貞享元年九月以乃初免。至永  
正隆元年以乃書院免。享保正年以乃

古智西督。延享元子年以乃病  
免年以乃免年有乃

享保正年以乃書院免

戸田為平卿

忠直

正方

享保正年以乃書院免  
延享元子年以乃西督。以乃  
以乃以乃以乃。享保正年以乃

以乃以乃以乃。享保正年以乃  
以乃以乃以乃。享保正年以乃

以乃以乃以乃。享保正年以乃  
以乃以乃以乃。享保正年以乃

和正三年十一月五日 宿願の病死  
再右の如し

戸田九郎 切丸

重常

和正三年十一月五日 宿願の病死  
再右の如し  
安永元年十一月五日  
宿願の病死

重興

大正四年十一月五日 宿願の病死  
戸田重興 切丸

安永元年十一月五日 宿願の病死  
再右の如し  
和正三年十一月五日 宿願の病死  
再右の如し  
安永元年十一月五日 宿願の病死  
再右の如し

後二

三書道集卷之八

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



有為姓

家紋 六芒星

三回

言 早名

三書道集卷之八 三回 言 早名

三回七月

三書道集

改道

三書道集卷之八

三書道集卷之八 三回 言 早名

元禄五年九月... 家督... 正保七年... 或此國... 正保七年... 或此國...

正保七年... 戶田...

改英

正保七年... 正保七年...

家督... 正保六年... 正保七年...

改英

元禄五年... 正保六年... 正保七年...

正保七年...

本出属行海島藤子属是定実尚似  
順。以十一中本属月日之也結未流  
濟島。日長本也。以十一之病死本之  
年七月二

白田富美 白田富美

改保

享保八年九月八日。白田富美  
白田富美。白田富美。白田富美。

高島藤子。白田富美。白田富美。  
白田富美。白田富美。白田富美。  
白田富美。白田富美。白田富美。  
白田富美。白田富美。白田富美。  
白田富美。白田富美。白田富美。

改苗

享保八年九月八日。白田富美。白田富美。

白田富美 白田富美

白田富美

十二月、（？）。口（？）。本（？）。口（？）。口（？）。  
 及書院者。口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。  
 口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。  
 十二月、（？）。口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。

（？）  
 口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。

改演

宝曆九年、（？）。口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。  
 口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。

西永六、（？）。口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。  
 口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。  
 口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。  
 口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。  
 口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。  
 口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。口（？）。

田原守

初虎右

改方

寛政六年七月十日  
十二日  
十三日

宋燧

高田石

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

有田姓

家改

戸田

言三百俵

澤山及馬殿家之代澤山澤原之  
皆十石也

田原守

三ノ原

後河原守代  
古徳原守代



廿六日病死

田中半助

主政

享長七歲年 承格の日本二月七歳  
三月廿六日病死 爲務出難可く 右法政等  
葬

主政

田中半助

父主政及妻孫等より 奉る同考之奉り  
三月廿六日病死 爲務出難可く 右法政等

主照

田中半助

半助

享長七歳年 承格の日本二月七歳  
三月廿六日病死 爲務出難可く 右法政等

此書之後中類。考其安仁元年六月國傳  
云。東。采。鳥。之。年。七。月。未。七。日。行  
但。明。唐。之。年。本。口。切。本。之。官。係。同。年  
二。月。中。之。病。死。之。元。文。八。年。本。之。國。有  
存。者。是。室。八。年。本。十。五。日。之。病。死。者  
也。國。傳。在。口。口。

元元

田原

正寶六年正月朔日。以。其。年。十  
二。月。廿。日。家。督。之。元。傳。九。子。年。十。五。日。之  
病。死。也。指。七。歲。年。高。門。之。

宗貞

高田  
田原九郎

元保九年十二月九日家督口口口口口  
二月廿日之病死者。口口口口口口口口口  
病死。口口口口口口口口口口口口口口口

舞臺門之

三回五二節

忠章

正徳六年十一月百餘條。○事保。○  
志以。○  
河。○  
願。○  
右的。○

每。○  
年。○  
上。○  
方。○  
同。○  
○  
元。○  
六。○  
活。○

戸田重一郎 新花

忠提

寛保二四年二月廿七日。實延元  
辰年四月十日。旨。御。密。居。本  
分。以。各。者。如。永。八。年。十。月。八。日。  
免。天。明。在。本。以。下。後。居。多。夜。火  
辰。年。二。月。廿。七。日。或。死。出。報  
日。台。迄。以。分。年。

戸田八郎

捷守

天。明。二。年。八。月。廿。日。御。密。居。本  
分。以。各。者。如。永。八。年。十。月。八。日。  
免。天。明。在。本。以。下。後。居。多。夜。火  
辰。年。二。月。廿。七。日。或。死。出。報  
日。台。迄。以。分。年。

高之百歳

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

東照宮時代

戸川

言五平石

藤原性

家茂

梅神三布衣  
七九桐九二川

浮田中納言秀家先戸川旺後寺

秀安惣氏

旺後寺

和助七郎

達安

父秀家浮田中納言佐備前守忠房為  
山子左衛門右衛門七年小早川隆景

といふ事、川合戦、初陣を級と爲る  
町より三歳。日十年、備中、備前、備後  
と改父と爲る。之地の城と拔。日、又  
年、豊后、家九、別、愛、向、の、時、秀、家  
の、先、降、あり。日、十八、年、秋、壽、野、原、の  
日、年、小、田、原、の、役、も、秀、家、の、後、の、心  
中、城、と、改、二、方、の、矢、合、と、數、も、あ、り、改  
く、城、陷、秀、家、と、常、く、備、前、備、後  
日、年、九年、豊、后、家、秀、家、の、弟、秀、家

陰謀を以て、朝鮮征伐の浮議あり  
年、秀、も、信、長、と、文、祿、元、年、秀、家  
と、信、長、の、朝鮮、國、を、渡、海、し、の、軍、と、改  
日、年、年、晋、州、城、を、拔、の、廣、長、は、年  
備、前、備、中、と、秀、家、の、弟、秀、家、の、後、の、心  
東、照、文、上、秋、征、伐、と、備、中、備、前、の、時、伏  
秀、家、より、石、田、原、を、進、ま、り、國、東、池  
向、石、田、川、向、ま、り、一、番、の、後、と、合、石、田、  
原、治、た、近、と、打、り、秀、家、と、備、中

國より二〇九石解と稱し在道に焼く  
あり得僅い万石の 〇以十九年冬大坂の  
あり得僅い万石の 中津城にゆく敵と争ふ又天満口に  
田福寺と云ふなり

東照文清の威の敵と云ふ不出流の  
因りて大坂の思召法野丸集伏と  
流らる〇元和元年夏大坂陣  
まは因る経甲もとありて大坂城  
と云〇以十九年六月福清丸集の事

松岡収のの時書後討らるる副使とす  
〇以後は夜活の丸加つらと月傳之音  
人にとる〇寛永に年十二月廿六日  
死六十一歳池上中門寺の葬

勝安

助左衛門

慶長十九年冬大坂より見とる  
初めはいつら  
東照文清の傳中より二〇九石解と云

存  
多德院殿の附書に記す所の死年月

未

助五郎 孫六

美達妻の男

長子よりなり早世歿地

正安

古伝書 初市宛

元和七年初月初人の宛元永三年初月

叙壽古伝書に記す所の十一年初月津上洛儀  
其の月十二年初月節山造受の  
傳の宛元永三年 此間 女院御所  
造受の傳に記す所の九年六月廿二日儀  
中玉座殿より死すに由來本所  
不詳

書宣

古伝書 初書番

寛文九年七月廿九日宛書宣の年月



其旨初見の頃年十二月カサガ初警書七  
依与の頃二年初カサガ糸向の古渡使  
也馳之及の延宝二年十二月奉使  
中玉座敷より死カサガ平七兼成隆寺  
より并

安風

維版助

延宝二年初初家書の日七年青

達信

比正流

玄蕃 初ラ年

二百死九集三回大富年より并初飛  
るるに家絶安風石飲の同より日所  
権江よりありしを石も同く収と

延宝七年初初見の石録より新地又  
平石傳至松川在敷より流交代  
奇合の月八年八月十八日初合意

延宝七年八月十八日

保十三年九月廿七日死年八十  
卒

達素

古佐子 初内膳

正徳元年十二月廿九日初任  
十四年十二月廿九日任  
五月廿九日任  
九日叙爵古佐子

一月廿九日任  
侍中

内膳 初源次郎

達恒

寛文元年十二月廿九日任  
二年二月廿九日任  
八月廿九日任

達邦

洪亮

安永元年十一月廿日  
年九月廿日初九日  
冒月廿日初九日  
冒月廿日初九日  
冒月廿日初九日  
死日寺葬

達壽

万花

安永元年十一月廿日

大猷院殿清代

戸川

三三音儀

藤原姓

家茂

梅神

戸川正隆子達安三男

桓仁集初又五郎

義安

寛永十年初初見の以十三年初  
百三十三の首儀物由小姓組父を妻  
より内子合方子右所の家家の所歿

没收の時古子取云〇寛文六年朔  
病死〇天和二年八月首死七拾歳  
浪谷東山寺に葬

長江節 幼又命 浪谷江幡女

妻直

寛文五年十一月山莊組の家持 詳明  
〇貞享四年四月廿八日病死〇享保  
三年十月十九日没後〇以十六年正月

十日死に捨て感因寺に葬

女章

浪谷東山

享保三年十月九日病死〇同日年  
十月八日浪谷山莊組の家持〇享保六年十一月  
月廿日死に捨て感因寺に葬

安勝

桓瓦志 初石年 去後師

宣慶六年十二月奉自家書○以七  
年一月餘七日初九尔姓得○以年  
四月終

大新附○以十年八月三日奉九初  
○以十二年十二月十六日西九附○安永  
八年四月十一日奉九初○天西元年  
二月五日奉九初○以六年字年十月

廿日申九初○安政七年二月五日  
老免後令書教

十卷 和 定臣師

安晋

右馬督殿 下奉九初大書

全治

刑部少殿 下奉九初大書

秀達

女道

尼古

実方保恩之清教房三曾

天保七年二月廿日年表子〇寛

政二年十一月十日官書院番

大猷院殿清代

戸川

三二年旦首名

後系姓

家致抄押三曾  
七九桐九二行

戸川駐居寺達安三曾

因飛助 初三鳥

女光

寛永二年朔分地之百首名〇月八  
年二月廿日初見月廿日初の清兼

Handwritten text on a vertical slip of paper, likely a title or reference number.

裏面白紙

裏文書



平賀源一の書院番年朔の文安二  
年八月朔日掛列の石塚川河  
福地にさしに百日の所福の家  
地を成し公まうりとの地早  
中より同一年六月九日死  
少屋福最上守の葬

田茂助 初十

張居好乃安

書

美小島島寺勝二重

慶安三年初家持と台令の宣文

十年八月十日大阪府代九月廿

四日同三年四月十日府の元

七年八月廿八日定之山河地以

十二年二月九日改仕春先料三百

位之物六甲十三年書色子日百石分

地の山徳六年十月廿八日死

日守の葬

貴

因飛助初平古 三九書

天和三年九月廿七日出使。元禄  
九年十二月廿十日皆初集令  
丙辰。同平文年二月十九日。出使。  
同年六月廿八日。出使。同年九月  
廿日。出使。長崎。同年十月廿八日。  
同年十二月廿日。出使。同月廿八日。布

貴

夜。室永之。年十二月二十日。出使。  
同代。同二年十二月廿八日。出使。  
同年八月廿日。出使。同代。同月  
八日。出使。同代。同月廿八日。出使。  
同代。同月廿八日。出使。同代。同月  
廿八日。出使。同代。同月廿八日。出使。  
同代。同月廿八日。出使。同代。同月  
廿八日。出使。同代。同月廿八日。出使。

安晴

実安の書

三九書 知基之師宗女十九書



乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日

恭

乙未年三月廿三日

乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日

照

乙未年三月廿三日

乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日  
乙未年三月廿三日

仁徳天皇二十二年九月廿一日  
皇令推授同日年六月廿一日  
支那の宮廷元年九月廿一日  
の事より一江の先元相了年  
同日教免の宮廷元年六月廿一日  
仁徳天皇二十二年

仁徳天皇二十二年  
初 全茂

仁徳天皇二十二年  
初 全茂  
同日教免の宮廷元年六月廿一日  
仁徳天皇二十二年

仁徳天皇二十二年  
初 全茂

仁徳天皇二十二年  
初 全茂  
同日教免の宮廷元年六月廿一日  
仁徳天皇二十二年

仁徳天皇二十二年  
初 全茂

初元。安永二年六月廿二日死。年  
之系以守。葬。

内務助初年人

安祖

実名居母也忠義の男

安永六年九月七日初元子日白家徳○  
日年十二月廿日初元○天保元年  
十月七日美の家をとく依一男と

初元。安永二年六月廿二日死。年  
之系以守。葬。

徳太郎 初令之也

安快

天保六年十二月廿二日初元の意以  
初元六月廿二日初元○日八年九月  
廿日初元上院の同年十月廿日火  
事焼死○日九年二月廿日

納戸の日本二月七日西尾忠村の月  
年十一月六日信守の多野多良公  
賞の河板三郎

常憲院殿津代

戸川

首原姓

家茂

栞峰三郎秋  
七九桐九行

戸川内苑御安の御書

十三年

初右筆

書通

元禄十二年二月廿二日會に初見  
日甲亥年二月十九日御地印首原信守  
承元元年六月十日書院後書の元文

五年九月朔 老免令或致幼の月  
十日死 七年之系本中 國志最上 幸  
葬

十三年 初 壬庫

長

美因者仁信正則也  
享保三年四月十八日 長子之元文  
二年六月廿九日 宗姓也 以長年十二月廿百

享保

家持の病免 享保三年十月  
晦日死 檢定 奉 守 葬

籍

享保三年十二月廿五日 家持の室  
二年十月十日 自書院告の事 永年  
七月十日 自書院告 但 以 同 年 十二月  
卯辰の因 享保三年七月十日 自死 只 九 年



日守新

卷十部 初月記

女論

寶由東康長安院の山法第二男

女水六年十月八日吉子家傳の月

年二月十日法法在少く茶茶の上

現子の合太の二年二月九日申里に

生的一上院又編子換為茶茶と為

○同三年九月廿七日小納戸の同年十

二月十八日布衣の同三年正月廿一日

年二月十日村為女百時梅の同三年

十月廿六日

波の院敷室令七指由海院宮の同年

二月廿五日以上の一或則上院に入

日年九月廿七日吉子家傳の同年

二月廿六日同七年二月廿六日小

中系村の牧王の指梅の同三年

十百廿五... 日本... 菅原... 順之... 年...

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

大猷院殿御代

戸川

菅原姓

家紋 梅津 菅原 氏

戸川 北後 達安 四男

平太夫 初平九郎 五郎

安利

寛永二年朔合地... 菅原... 年... 初平... 九郎... 菅原...

昔○万治三年十一月甚有雨川东  
海宇破損其以竟之元年十二  
月德安所被重之夜之物○因以  
烈病免世日二里尼門出村之旨  
石之地○因年九月旨死早九家  
麻布之世也寺葬

日向寺 初大九帝 乙辰

平九馬 佛前寺

安廣

寛文四年十二月十日家持の安廣三  
年六月寛文三年十二月六日山書院香の元禄三年  
九月十七日度使香の因年十二月初  
布衣の因月十九日皇之因月初月  
四年二月旨胆前玉后津城の度  
月旨出越七月十八日帰徳の旨  
年八月廿五日因村の因年九月  
旨相問香の因年十二月十八日旨  
佛前寺の因年十二月十八日旨

孝治の四年二月十四日百廿七  
孝治の四年十一月七日百廿七  
孝治院敷三十一回清志出用掛の百七  
孝治十月廿九日百廿七改の百七  
孝治二月廿九日百廿七改の百七  
孝治百廿七改の百七

王膳

書膳

延宝二年初見の中山性也  
元禄九年十二月廿二日精勤の書令  
又教の百廿七改の百七  
七条の百廿七

初負 初千と初

安永

安永二年六月廿七日父の御名は料  
三百俵と云い山寺清の日向と書廣の

嫡孫かきしつらる初稚うねい女廣り  
 西尾乃吉村と名よし一太嗣と名よ  
 室永と年八日今吉村と名よしあり  
 此れすくこの二百俵を收り〇享保三年  
 九月廿初見〇同一年九月廿九日死  
 拾九束の寺の事

西尾乃 初太師 在門

安村

初女親

實女利二百

宣文に年十二月十日分地三百石〇  
 延宝六年九月十日京本姓組。天和  
 二年七月廿六日中東書〇同月廿六  
 日中興  
 近江の自領五年二月九日京本姓組  
 〇室永の二年八月廿六日見の書子  
 〇同六年七月廿六日家持吉村多地  
 三百石に収る〇享保三年九月廿六日  
 江戸書〇同一年六月九日大坂江國次  
 七月廿八日酒造〇同一年二月廿七日後

表 手書

源系院南紀原より中野の信守より  
賀茂と命をきく此因年四月十日  
依見より山伏より九月十日  
正月十日越後守村上藤原俊之  
女百山崎より九月十日  
十百山崎より四月十日  
十百山崎より四月十日  
十百山崎より四月十日  
七拾五歳日守葬

表水

初 干 而

實因姓之信安勝忠

傳前より

蓮作

宮内 初 守 平六

實因姓之信安勝忠

享保元年七月十日

月知初之夕天病よりくまのりて天清

ふらまの初之夕年人

村由

礼書  
書

左門

實地隠岐守利隆二曾

享保七年八月廿七日

三月十二日初之夕八月廿七日

在藩の同廿年十月廿七日

年十二月十二日初之夕元文元年

初之夕初之夕初之夕初之夕

月十二日初之夕二月廿八日

○元文二年十月廿八日

使の同廿年八月廿七日

初之夕初之夕初之夕

○同初之夕初之夕初之夕

○同初之夕初之夕初之夕

初之夕初之夕初之夕

又三石少地前注ノ数合ズ

裏面白紙

裏文書



左門 和藤以席 立胎

村真

和女康

寛文元年十二月廿六日初八日  
元禄十一年十二月廿六日  
元禄十一年十二月廿六日  
元禄十一年十二月廿六日  
元禄十一年十二月廿六日  
元禄十一年十二月廿六日  
元禄十一年十二月廿六日  
元禄十一年十二月廿六日  
元禄十一年十二月廿六日  
元禄十一年十二月廿六日

安章

大原廓

元禄十一年十二月廿六日  
元禄十一年十二月廿六日  
元禄十一年十二月廿六日  
元禄十一年十二月廿六日  
元禄十一年十二月廿六日  
元禄十一年十二月廿六日  
元禄十一年十二月廿六日  
元禄十一年十二月廿六日  
元禄十一年十二月廿六日  
元禄十一年十二月廿六日

藏有院殿清代

戸川

友系姓

家茂

云云  
云云  
云云

戸川古伝与正安二曹

明正帝

和

三河帝李之助

景藏

初正德

寛文九年七月十九日  
正徳九年七月十九日  
正徳九年七月十九日

正嘉元元年天和元年二月廿九  
州西元使三月廿五日  
湯湯貞享元年二月十二日  
引渡月及廿八日  
湯湯元禄十一年初  
年十二月廿九日  
寺葬

氏部 初原

等

初建

實月姓言著達言

室永之年十二月廿七日  
十二月廿九日  
初九日  
日十年二月廿九日  
初九日

卷下  
字結  
中  
可  
久  
久  
久

裏面白紙

裏文書

○元文二年一月廿八日大坂御其  
 御上月初七日歸湯○同二年七月  
 七日御其○寛保元年十月十二日  
 卒一乘日守葬

山崎守 幼信藏 如公帝

達和

寛保元年三月補教習

寛保元年十一月七日奉<sup>上</sup>御<sup>下</sup>書

○同二年四月廿一日皇太后御書○寛保  
 二年二月廿一日進物書○同二年四月  
 小納戸の同年十一月八日布衣の定  
 曆八年九月七日御書○同二年八月  
 見合の同二年四月廿一日死附○同  
 十一年八月廿一日御書○同十二年  
 正月十日御書○同二年十月十日三  
 別是御書○同二年十月十日三  
 八日御書○同二年四月廿一日和

年二月廿九日改刻之社山清言  
修後出末業及分月晦山脈に  
月十九日端陽○日三年之月は日  
光年以○日年二月日星脈教  
山城寺○四和民年月初日之山  
宗愛修後用外○日年月初日紫  
類用外○日年月初日之山  
風後修後出末業及分○日年之  
年二月日分書法修後之社山清言

年十月廿九日田安府改刻之○日年  
二月廿九日之一人也知書法當時  
版に之語○日年十月十二日有身  
○日年六月廿六日山脈修後以  
○寛政二年二月廿九日書法改  
○日年二月九日陰術 上院之入  
○日年二月廿九日改刻之○日年  
十九日改刻之書法科之音信之場○日  
九年十二月晦日死七十八年日有

寄屋屋ヨリ所由控取トスル方カ

裏面白紙

裏文書

舞

達旨

大學 初巻太師 助久師

宝曆十三年二月廿七日初八日同奉

九月廿七日

孝恭院殿清和系の時少人跡の事

永享元年十二月十九日御時御時

八年十二月廿七日中興書院宣旨

年二月廿七日今京山藤北藤の

日八年四月十九日宣旨同日十年

六月廿七日流以の同奉十二月廿七日

布衣



平村 家茂 考

戸張 了 二百俵

上總介之望平代之邊風千葉介  
為流之次男相了次郎師為孫也  
次郎在武野風綱下總出戸張村住  
其子戸張忠胤是苗字戸張家  
相馬次郎在武野風綱下代教石伴

伯胤

平張山三郎胤之二男  
戸張家去史

大猷院様御代新規云 出石山切米穀百俵

其の安江卯年十月方

大猷院様御代 御改入為三之九為

大猷院様御代 御目見十人の寛文三年

御人組之儀。延宝六年十月六日

御度委番之儀。同八年十月廿七日

淨徳院様御代。天和三年六月廿

八日西丸方一同小當番。元禄十五年

正月廿九日。元禄十八年。元町之倉

蘇

戸張氏右衛門

方張

神田 所敷山書院番。和勤延宝八年

十月廿七日。西丸半人。天和三年

六月十八日。西丸方一同小當番。元禄七

成年。同六月九日。西丸半人。宝永

元申年八月九日。西腰物方。西徳元年

二月十六日。心傳初方没方。○享保元年  
十月十日没方。○同少當傳。○同十日  
自年六月廿四日。死。○年六。○年。○寺。○日。○

邦胤

享保元年四月七日。死。○年。○寺。○日。○

胤實

隱居。○寺。○日。○

戶張氏。○寺。○日。○

享保十。○自年。○八月。○日。○  
同十。○成。○年。○月。○日。○  
七年。○三。○月。○十。○日。○

○口年八月十日。隱居。○安永二年。○  
四月十日。死。○年。○寺。○日。○

胤親

享保元年。○寺。○日。○

○口年八月十日。隱居。○安永二年。○  
四月十日。死。○年。○寺。○日。○

突河秋会府政房書

戸長或左書

上書

瓊尚

言或百儀

寛政二戌年七月二十日書子家書○

日日子年九月廿五日初見○同日六宣年

三月廿五日中里御用屋敷馬御

之後○同年六月廿七日少十人○日七

卯年三月廿五日小倉原中馬御

西借弓日月廿九日お吹上天的 之後

時服二○同八戌年十月二十日右口口○

同年十二月十日西尾附○同九戌年

六月十六日采御 上落互お書及



胤久

戸波山守

九尾山 胤房 守  
胤久 胤房 守  
胤久 胤房 守  
胤久 胤房 守  
胤久 胤房 守

平竹 戸波

家紋 考

之白百俵



平右衛門左衛門 俊成 守備 小十人 儀  
此系 抄本 法 古 傳 乃 是 殿 方 正 年 名  
五 年 月 日 正 公 正 德 家 正 法 別  
久 德 處 所 之 後 日 光 正 正 德 家 正 年  
正 德 家 正 年

正德家正年 正德家正年 正德家正年  
正德家正年 正德家正年 正德家正年  
正德家正年 正德家正年 正德家正年  
正德家正年 正德家正年 正德家正年

全錄

正德家正年 正德家正年 正德家正年

正德家正年 正德家正年 正德家正年

正德家正年 正德家正年 正德家正年

正德家正年 正德家正年 正德家正年

正德家正年

正德家正年 正德家正年 正德家正年  
正德家正年 正德家正年 正德家正年

法。曰。乃。本。二。月。八。日。病。死。于。其。家。  
後。乃。以。白。布。束。身。

戸。邊。之。所。

乳。森。

丁。未。之。年。本。亦。以。乃。智。之。曰。本。有。  
古。乃。早。乃。後。乃。曰。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。  
乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。  
乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。  
乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。

也。先。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。  
乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。  
乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。  
乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。

乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。  
乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。

乳。貞。

乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。  
乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。



○心使... 保平九... 海...

戸邊... 初任...

胤章

胤好

宝永六... 享保十... 二月...

四月... 享保... 宝曆元... 享保...

胤真

戸邊八郎... 初格尾... 大京

宝永... 十二月...

宝曆三自年八月廿家譜○日十三  
未年十二月廿七病免○明和七自年  
三月十日死四拾二歳寺日三

益之

戸張貞吉

高田百儀

明和七自年二月十日家譜○安永  
七自年二月十三日於沖庭外三傷驚  
上流○天明己辰年九月廿六日於

沖庭大の上流○同六年十二月  
廿六日小姓組○寛政元自年十月十日  
於吹上西庭丸物の上流人友和或友  
○日三亥年九月廿六日於吹上沖庭  
大の上流時腹二○日七卯年三月  
廿六日小令原西原村香紗西供○日年  
六月廿六日吹上西庭園の上流鳥  
或友○日九三年十月十八日沖供了  
為村苗日女日時了二○日午午年

九月十二日於吹上西庭園的 上院  
五物二〇同年<sup>十一</sup>月於吹上之  
上院時順二月十日<sup>十一</sup>日  
...

源姓

戶塚

家紋 丸内向馬  
白字洞子透

子子三百名

經春王六代六條判友乃翁三代戶塚公之  
親忠土代戶塚家乃所持忠三男

戶塚乃乃家

只乃家

忠妻

作 初軍前時公之位の夫文士 宣年

妻 肖命攻了名門大藏城の口廿二  
平八日討死早業名門所行法

寺之森 後改葬 牛也 天龍寺

忠家

戸塚氏に在り

信房 右門家 信房 二河の 永福七年

二河の 永福七年

忠吉 以 四河の 天正十九年 永福七年

代の 信房の 文福に 未の 八月 六日 死す

天龍寺

心流

信房の 天龍寺 中興祖

始を 永福 信房 村法 永福 寺七世 住職 所

園東 所 入 園 刻 法 永福 親族 一寺

速 立 法 信房 以 中 興 祖 永福 寺 永福

八河 信房 寺 他 永福 永福 永福 永福 永福

信房 永福 寺 永福 永福 永福 永福 永福

永福 永福 寺 永福 永福 永福 永福 永福

永福 永福 寺 永福 永福 永福 永福 永福

信房 永福 寺 永福

女子

細柳局 於元

父討死の時細柳局は母一同祖父母に正徳  
許す云々之後正徳局縁而久未承進而後  
嫁前御殿死之後母一併に正徳局  
竊言其家成(天正六年)年遠近有云  
正徳局死後と云々有云々  
二月十九日於後府卒

忠元

戸塚御右衛門 田代

始忠元は其母に後

行現様

名徳度極く其母に其母九年九月十九日園中  
所住大谷刑部卿の御厨下大造等小卒  
正徳の日は五年七月十九日  
五月十九日

行現様所承不承候の日は其母九年十月

行傳四條の元和二年九月十九日西書  
院五但沢の門九亥年四月廿九日西書  
山上落市一の丸四箇有在取の同十月三日  
ら下飛を以て濱松城之に法 傳名を并に  
之并大維家 行傳之惣病名之を心仕  
乃守之古男子取伊多左門某次男某  
解老の子と記在の同年七月七日死は早九  
天龍寺

志末

文行通門子  
戸崎世臣

元和九年正月廿日解老の子某男の死  
此小住組の某男も在年二月廿日死  
三千日寺

志次

戸崎世臣

寛永永在年一某男の同十四日五年西書  
院取の病免の形意三年一月

次男傳八、二十日没命。同日没命。平正月  
十日死。牛也。室家寺。葬。

忠勝

戸家之九郎

平應仁未年二月没命。家後。平正九  
為年。平正九日死。回寺。

忠久

忠久  
平家志在集 傳八 傳十郎

平應仁未年三月没命。多知。平正九

卯年十一月九日。西米莊組。平正九。為子  
三日。平正九。見忠勝。妻。子の。平正七月  
十日。平正九。見忠勝。平正九年。十月  
廿七日。死。回寺。

忠貞

戸家之九郎

平應仁未年七月。平正九。為子  
平正九年。九月。六日。死。回寺。

忠  
暁

大福寺  
実小幡之屋 宣正二子  
戸崎のたふ

宣正二年七月十四日若子の日年有  
たふ家名の高保二百年十月十六日  
死回寺

忠  
恒

戸崎のたふ  
今年新

高保三年二月四日家名の日于新  
四日九日小幡組の元文六年七月廿二日

死回寺

義  
忠

大福寺  
実小幡之屋 宣正二子  
戸崎のたふ  
今年新 永倉

元文六年七月十四日若子の日年有  
たふ家名の高保二百年十月十六日  
死回寺  
宣正二年七月十四日若子の日年有  
たふ家名の高保二百年十月十六日  
死回寺  
宣正二年七月十四日若子の日年有  
たふ家名の高保二百年十月十六日  
死回寺



万平十有六日死六十六天光寺

為忠

戸塚結物 以次郎

天明八年七月二十一日死六十八天光寺

忠業

戸塚今平郎

高千二百石

天明八年七月二十一日死七十九天光寺

源姓

源姓 九白三三

戸塚

高千二百石

戸塚源姓の伯英又清将之在る清将

苗字は伯英戸塚の改称は之を知る

姓は源姓清将の伯英又清将之在る清将

義名は伯英清将の伯英又清将之在る清将

之在る清将之在る

伯英

戸塚源姓の伯英





源姓

女氏小室京

家致 三善美  
五七相

戸口

百俵

小室京之右衛門長久思成源人小室京

之右衛門長久思成源人

小室京之右衛門

長吉

寛永三十四年二月四日從以長吉之名  
儀之人被持之長吉戸口之致之儀也

延寶七己年十一月九日病死歌多知下岩  
為蓮寺葬

長直

戸口志之史

寛文十一年庚午年十二月朔日位分以右  
父名右馬之左近衛少将元康  
元禄六年甲午三月廿九日病死歌多知下岩  
葬

長政

戸口志之史

母 三家女  
妻 三家女

元禄六年甲午 家督正室元人の同九子年  
中野上及び同十位乙午 正室元人の同九子年  
百俵の三月元人の同九子年  
信入の寛保元年甲午九月廿四日同九子年

年六月病先少常法○以年九月十日病  
死形之公因寺葬

長女

戸口助進

母 妻 三家女

享保二百年七月廿七日見病○以二月廿年  
三月換人校持下○以日更年十二月家持  
○以八月廿年一月以申野在完○以九

在年一月廿日病先少常法○以年九月十日病

長光

戸口助進

母 家女

妻 三家女

享保九在年一月廿日病先少常法○以年九月十日病  
在年一月廿日病先少常法○以年九月十日病

應格

戸口助進

和貞

宣太后

宣太后 宣太后 宣太后

宣太后

元文宣帝五年四月乙未宣太后薨于内殿  
元角年十一月乙酉刑部以故御史大夫  
四社名出九日四国分得之宣太后有  
高宗病危少帝即位宣太后五年十二月五日  
宣太后崩于内殿年二月八日宣太后崩于内殿  
宣太后崩于内殿年二月八日宣太后崩于内殿

宣太后崩于内殿年二月八日宣太后崩于内殿

宣太后

宣太后

宣太后崩于内殿年二月八日宣太后崩于内殿

宣太后

宣太后崩于内殿年二月八日宣太后崩于内殿  
宣太后崩于内殿年二月八日宣太后崩于内殿  
宣太后崩于内殿年二月八日宣太后崩于内殿  
宣太后崩于内殿年二月八日宣太后崩于内殿

長久保方渡舟福清又白節一以作傳中  
四月九日在志之格日本六月一日又白節  
死節之月以月日同也其節之志也格  
日本七月九日也其月日同也其節之志也格  
中三月七日也其月日同也其節之志也格  
四月九日

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

有東姓

戸系

壬戌 七月星

高平侯方人持標

大御前傳之十六代後凡田原者之

秀卿書

戸系傳書

正統  
大御前傳之十六代後凡田原者之  
介病死古寺町長壽寺中書院

小森

戸家左助

正之

享保十一年十月廿三日  
元禄十一年十月廿三日  
享保十一年十月廿三日  
享保十一年十月廿三日  
享保十一年十月廿三日  
享保十一年十月廿三日  
享保十一年十月廿三日  
享保十一年十月廿三日  
享保十一年十月廿三日  
享保十一年十月廿三日

尚徳

戸家左助

享保十一年十月廿三日  
元禄十一年十月廿三日  
享保十一年十月廿三日  
享保十一年十月廿三日  
享保十一年十月廿三日  
享保十一年十月廿三日  
享保十一年十月廿三日  
享保十一年十月廿三日  
享保十一年十月廿三日  
享保十一年十月廿三日



音頭

戸部平八郎

宝曆二年十一月廿七日  
亥年十一月廿七日  
病死年有月日

亥年十一月廿七日  
戸部平八郎

音利

明和元年十一月廿七日  
亥年十一月廿七日  
病死年有月日

心忠

明和元年十一月廿七日  
亥年十一月廿七日  
病死年有月日

亥年十一月廿七日  
戸部平八郎

心和

亥年十一月廿七日  
戸部平八郎

奉書

九月三日

言元政九正年十一月廿六日

高七拾

六拾

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '言元政九正年十一月廿六日'.



有虫

外山

家故 四男本凡

言三百

之河國郷土印心

心

外山

元政九正年... 言元政九正年... 言元政九正年...

屬一書遺之者位似字中甲辰生  
保延遠西助日撰十二月十日致死

四右

外心忠信

父曰おんまゝとて十八年不致借し  
口信お初之言系と長別ら初骨お云骨  
藏とて父致死に後身とて身初骨お  
おまおの自骨と後徳受お初骨と後

而之陣古坂西陣示四休の口信世後  
四夫と書て次の上信と書高初と書百  
口信と書とて口信と書初年七月十日  
死也後と書と書と書と書と書と書

五春

外心者信也 忠信 忠信

口信信初代口信の口信是年口の信  
文十一年二月十日死に後と書と書

葬

雅因

和山古書

小池

寛文六年十二月十日  
 寛文七年正月十日  
 寛文八年二月十日  
 寛文九年三月十日  
 寛文十年四月十日  
 寛文十一年五月十日  
 寛文十二年六月十日  
 寛文十三年七月十日  
 寛文十四年八月十日  
 寛文十五年九月十日  
 寛文十六年十月十日

西利

和山古書

元禄六年正月十日  
 元禄七年二月十日  
 元禄八年三月十日  
 元禄九年四月十日  
 元禄十年五月十日  
 元禄十一年六月十日  
 元禄十二年七月十日  
 元禄十三年八月十日  
 元禄十四年九月十日  
 元禄十五年十月十日

西定

和山古書

元禄十六年正月十日  
 元禄十七年二月十日  
 元禄十八年三月十日  
 元禄十九年四月十日  
 元禄二十年五月十日  
 元禄二十一年六月十日  
 元禄二十二年七月十日  
 元禄二十三年八月十日  
 元禄二十四年九月十日  
 元禄二十五年十月十日

初以承平五年等々有御書奉承而御後  
 儀之中享保二年十一月廿九日大  
 坂具置等以の事是也二年十月  
 廿日於大坂死に在籍九年天正九年  
 亂拂り等

史

二史記  
 承平五年

享保二年十一月廿九日大坂具置等以の事  
 是也二年十月廿日於大坂死に在籍九年天正九年

八月廿九日大坂具置等以の事是也二年十月  
 廿日於大坂死に在籍九年天正九年十一月  
 月廿九日大坂具置等以の事是也二年十月

史

二史記  
 承平五年

初以承平五年等々有御書奉承而御後  
 儀之中享保二年十一月廿九日大  
 坂具置等以の事是也二年十月  
 廿日於大坂死に在籍九年天正九年  
 亂拂り等

病女の遺言の事  
寛政十一年一月廿九日  
病女



心周

外心也

心周の遺言

寛政十一年一月廿九日



